

こころの言の葉

～第4集 命のかがやき～



平成18年度「こころの言の葉」コンクール作品集
鹿児島市教育委員会 編

は じ め に

鹿児島市教育委員会教育長 石踊 政昭

「鹿児島市の教育を考える市民会議」の提言を受け、平成十五年度から実施された「こころの言の葉」コンクール。本年度の作品集、第四集をお届けいたします。

「こころの言の葉」コンクール、及び作品集には、各方面から大きな反響をいただいております。この作品集には、中学生の子から親へあてたメッセージと、親から中学生の子にあてたメッセージ（葉書）が数十編掲載されています。どの作品も、日頃は口に出せない素直な思いを綴ったもので、読む者の心を揺さぶるものばかりです。数多くの「言の葉」の中には、自分と同じ「こころ」のメッセージを見出せるものもあるのではないかと思います。

「こころの言の葉」コンクールには、直接には口に出せない思いを一枚の葉書に託し、中学生の親と子の心の交流を図り、お互いの存在について考えを深めるという趣旨があります。この作品集を皆さんで御愛読いただき、自分の親について、子について、あらためて認め合うとともに、これからの自分の在り方について考える契機としていただければ幸いです。

最後に、今回すばらしい「言の葉」を寄せていただいた一万人を越える皆さんに心から感謝の意を表し、はじめのことばといたします。

「こころの言の葉」の世界を十分に味わってください。

平成十九年一月

目次

「あふれる思い」・・・・・・・・・・中学生の子から親への言の葉	3
「命の輝き」・・・・・・・・・・親から中学生の子への言の葉	13
「夢に向かって」・・・・・・・・・・未来への言の葉	23
「心の響き合い」・・・・・・・・・・素直な思いの言の葉	35
平成十八年度「こころの言の葉」コンクール入賞者一覧	43
審査員講評	44

「あふれる思い」

—中学生の子から親への言の葉—

願い

お母さんは、ぼくにいろんな事を求めすぎる。

お母さんは、いつもぼくを急かす。

ぼくはいつもがんばっている。そして急いでいる。

でもね、お母さんの言うとおりににはできないんだ。

完璧にはできないんだ。

だって、中学生だよ。大人とは違うんだよ。

だからお願いがあるの。

ぼくに求めすぎないで。



心の手

たった一人の父親。

いつもしゃべらずにいる。

そばでいつも支えてくれる。

母親のかわりにはできないけれど、ぼく一人を大切にしてくれる。

しゃべらないってつらいけど、毎朝いつも

「学校がんばって。行ってらっしゃい」

そう言いながら大きくあたたかい手をさしのべてくれる。

そんな父親、見た目はつめたいけど

心と手だけは人一倍あたたかい。



大切なこと

私は、お父さんとお母さんが私の一番の理解者だと心から思います。

学校で友達とトラブルを起こして泣いた時、テストで思うような点を

取れなかった時、どんな時でも前向きに考え、支えてくれるお父さん、

お母さんの姿勢にはいつも感謝しているし、励みにもなっています。

相談したら一緒に真剣に考えてくれ、泣いた時には優しく見守り、喜ぶ時には心の底

から喜んでくれる。これまで当たり前だと思っていたことが、最近のニュースを見た

りして、一番難しく大切なことだと気付きました。

普段は恥ずかしくて言えないけれど、心から愛されているって感じられる一緒に過ごす

時間は、とても居心地がよくて幸せです。口ではなかなか言えないけれど、これであり

がとうの気持ちがあれば嬉しいです。



心の声

気付いて。いま私が思っていること。私は、ちゃんと訴えてるんだよ。最近、すごく胸が痛くなる。

弟にお帰りって言うのに私には一言も言わなくなったような気がする。弟を見ているといらいらするときがある。

なぜかって、私だって話したいこといっぱいあるのに。

弟の話ばかり聞いて、楽しそうに笑う。

でも、私が話をしてたらふうんとうなずくだけ。

いつも、私にいろいろしてくれてありがとうって言えなくなるじゃん。

逆に、私がいろいろさせてごめんなさいって言わないといけなくなるじゃん。

気付いて。私の心の中をのぞくだけでもいいから。

ささやかな声を聞くだけでもいいから。

私の一番の願い。



お母さんでよかった

世間じゃこの年の親子はケンカばかりと聞くけど、うちを見るとなんてことはない。むしろ、親子漫才を繰りひろげている。

うわあ、変な親子だと言いつつやめようとはしない。毎日毎日笑ってばかりだ。

なんでこんなに笑っていられるんだろうと考えれば、そりゃあうちのお母さんがいるからとなる。うちのお母さんは、明るく、さっぱりとした人だ。ふと見れば歌っているし、気付けばしりとりなどをしている。と思えば真剣に相談にのってくれるし、わたしの心配事を笑い飛ばして元気づけてくれたりしてくれる。

書き出せばきりがなが、やっぱり思うのは、お母さんがお母さんでよかったということ。でなきゃこんなに楽しい毎日じゃなかっただろうから。これからもよろしくおつきあい下さいね。



自分探し

いい子でいたかった。迷惑をかけたくなかった。

お母さんの笑顔が好きだったから。

そうしていたら、本当の自分を見失っていた。

いつも考える本当の自分。色々探した。色々試した。ますます見失った。

「いい子ぶらなくていいんだよ。あなたにはあなたにある本当の自分があるからね」

おかあさん、実はね、こうお母さんが言った夜、声を殺して泣いていました。

そうだ、本当の自分をゆっくりゆっくり探していこう。

たぶん時間はかかるけど、必ず本当の自分を見つけよう。

そして本当の自分をみつけたとき、お母さんに、本当の自分でこう言おう。

「ありがとう」って。





ありがとう、お母さん

わたしが、どうしようもなく辛くて苦しくて、立ち上がることができないくらい弱って、

生きる意味を見失った時。

それに気付いたお母さんは、悲しみながら、でも厳しく、

私をしっかりと心配しつつ教えてくれたね。

わたしが探していた「存在意義」を。

そのときは反発したけど、実は内心すごくうれしかったんだ。

まだ、わたしを見てくれた人がいたんだね。

そして実はたくさんの人に愛されていたんだね。

ありがとう、お母さん。

お母さんがぶつかってきてくれたから、

わたしは立ち直るところか、壁を乗り越えることができたよ。

本当にありがとう。

尊敬する母

いつも疲れた顔で帰ってくるのは、ぼくのたった一人のお母さん。帰ってすぐごはん作ったり、洗濯したり。

「どうしてそんな頑張れるんだろう」といつもそう思っている。

いつもうるさく「勉強しいや」と言っているのは、ぼくのたった一人のお母さん。

「うるさいなあ。なんでそんなにかまうんだよ」といつも思っている。

ある日、理由を聞いてみた。

すると「あなたの母親だからよ」と一言ですまされた。

「そっか」ぼくも一言ですませた。

その一言が、なぜかすごく温かかった。うれしかった。

ぼくには父がない。母が一人で育ててくれた。

ぼくはそんな母を誇りに思っている。尊敬している。

母はお酒が大好きだ。

だから、ぼくが初めて給料もらった日は、おいしいお酒一緒に飲もうね、お母さん。



命のバトン

小学校の卒業式するとき、母が保護者代表のあいさつをしました。

何を話すのだろうと思って、ぼんやり聞いていると、祖父の話が

出てきました。祖父は、二年前に急病で亡くなりました。母は、

祖父から「心のパワー」をもらったこと、「命のバトン」を預かったことを話してくれました。聞いているうちに、母の気持ちが伝わってきて、涙がこぼれてきました。

普段は、そんな風には見えなかったのに、母もすごく悲しんでいたんだということがわかりました。家では、ぼくたちの世話や家事などが忙しくて、悲しんでいるひまもなかったのかもしれない。

ぼくは、いつも母からパワーをもらっている気がします。そのパワーを無駄にしないように、感謝の気持ちを持って過ごしたいと思います。



「命の輝き」

— 親から中学生の子への言の葉 —



我が息子へ

近頃、何かにつけて衝突する君と…

「うざい」「うざい」を連発する君…

それしか言うことはないのか。

先日も取っ組み合いの喧嘩をした。

つかまれて赤くなった腕より、心のほうが痛かった…

私の育て方が間違っていたのか。

それとも、これも成長の過程なのか。

親に「うざい」は言わせない。

これからも、全身全霊でぶつかっていく！

かかってこい！

我が息子よ！



気をつけて

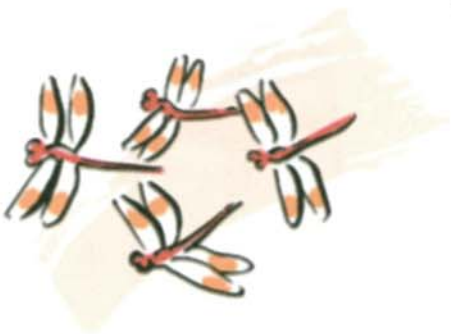
部活で疲れ、横たわっている息子よ。「宿題済んだか」「風呂に入れ」「さっさとしろ」などなど、母さんよりは抑えているつもりでも、父さんの一言も口うるさいと感じているんだらうな。

でもな、父さんも母さんも、お前が嫌いで小言を言っている訳じゃない。入学前のあどけなかつた顔が、今では日焼けして、精悍な顔つきになってきた。そんな成長するお前が、無事に帰っているから小言が言える。だから、朝出掛けるときの言葉は、

「気をつけて行け」

命令じゃない。父さんたちの願いだ。

夕方、お前や家族みんなの顔が見たいから。



子育ては親育て

「幼稚園までは優しかったのに。お母さん笑って。しわが増えるよ。

笑顔、笑顔。」と言われてドキッとしました。

あなたが生まれたとき、ただただ嬉しくて一緒にいるだけで幸せでした。でも、もう中学生なのだからと、あれもこれも教えておこなくちやと小言が多くなっていたのかもしれないね。私、何を焦っているんだらう。今しかない子供との時間をもっと楽しんだらいいのに。頭ではわかっていても、つい口から出してしまふ。だから、ぶつかってしまふのかな。だけど、ぶつかるのは、あなたが成長している証なのかもしれないね。お母さんもあなたから沢山のことを教えてもらいました。子育ては親育てでもあるんですね。

でも、いつも思っています。お母さんを選んでくれてありがとう。これからもよろしくね。



同じ通った道

お父さんは、お前に「勉強しろ」と言いながら、少し後ろめたい気がしているんだ。お父さんもお前と同じ頃、お前と同じように、爺ちゃんからそう言われていたんだよ。

そういうえば「勉強しろ」と言われるたびに、体から勉強する気が抜けていくようだったけど。もしあの時もっと勉強していれば、お父さんは今頃どうなっていただろうか。

お前に言えることは、勉強にしても何にしても、一生懸命にやったか、やらなかったかという正直な想いだけが、一生自分の心に残るということだよ。

だから、お父さんは、一生懸命やらなかったことを悔いて、お前を応援しているんだ。

「勉強しろ」と。



生きる力

今年一月思いもよらない乳ガンの手術を受けた。その頃のあなたは、人間関係のトラブルから体調不良を訴え不登校気味だったね。お母さんはあなたのことが気掛かりで、入院中何度か外出許可をもらって学校へ引っ張っていったよね。自分の術後の痛みよりあなたの心を思う時の胸の痛みの方が大きかった。

悩みを相談できる母が病に倒れて不安だったね。でも苦しんでいたのはあなただけじゃなかったんだよ。退院後あなたの表情が見違えるように明るくなってお母さんは思ったよ、あなたたちに必要とされる限りは生きていなくちゃねって。お母さんが病気と闘う力はあなたたちを思う気持ちから生まれるんだよ。貴方たちがいるからお母さんは頑張ることができる。

病気なんかには負けてはいられないんだ。まだまだ心配することは山ほどあるけれど、一緒に乗り越えていこうね。



自立するため

七月に十五歳になって、母さんより背も高くなり急に大人っぽくなった。

もう今までみたいに頭ごなしに怒れないな。

見かけは大人になったが、父さんから見るとお前はまだまだ子供だ。身の回りのことは全
てお母さん任せだ。その上時々激しく八つ当たりもしているな。

母さんは何も言わないけど隠れて泣いているぞ。

知っているか。

今、中三で勉強が大変な時だ。

良く解っている。勉強は大切だ。

だが他にも大切なこともあると思うんだ。

たまにでいい、母さんを手伝ってやれ。

気分転換にもなるぞ。

手伝えば、教わらなくても料理、洗濯、掃除、家事が自然と身に付くはずだ。

日常生活に困らないくらいの家事は少しずつでいいから身に付けておけ。お前のためだ。
お前もいつかは好きな人ができて結婚するだろう。そしてやがては母さんのような優しく

聡明な大人の女性になってくれ。



娘に感謝

耳の聞こえない母です。

娘の産声が聞きたい。でも、聞こえない。

娘と一緒に歌いたい。でも歌えない。

娘の弾くピアノを聞きたい。でも聞こえない。

娘は幼いころ、必死に私に話しかけたことだろう。

でも、分かってあげられなくて、本当にごめんね。

今なら、娘が覚えた手話で、音の雰囲気伝えてくれる。だから、一緒に音楽を楽しめる。

娘が覚えた手話で、歌の歌詞を伝えてくれる。

そんな娘に心から感謝している。「ほんとうにありがとう」

いつもは恥ずかしくて、面と向かって言えないけれど、あなたを産んで本当に良かった。

あなたが私の娘で、本当に嬉しい。幸せです。



成長の証

「うざい、かまわないで、消えろ。」

そんな言葉を言うなんてと少し悲しんでいたら、「それも成長の証、そういう年頃だよ。」と先輩のお母さんが教えてくれました。成長したんだね。小さい時から反抗することもなく、すくすく成長し、今は、自分の気持ちを口に出せるんだものね。お母さんは、消えろと言われても、消えません。あなたの成長をまだまだ、見届けなければいけませんから。

一つだけお願いです。今までの優しい心を忘れないで下さい。友達のために泣いてあげられる心、他を思いやる心、忘れないでね。

お母さん自身も他のために思いやることのできる人になりたいと思います。

大きく成長するあなたを見届けるまでお母さんは、うざくても、そばにいたいと思います。



感じてください

知っていますか、あなたへの愛を。あなたの誕生をどんなに喜んだか。

世の中全てを敵に回してもあなただけを守り抜く覚悟の私の愛を。

覚えていますか、あなたの素直さを。小さい頃、見るもの聞くこと全

てが新鮮で、嘘という言葉さえ知らず、素直な目をしていたあなたの純粹さを。

でも、成長とともに小さなウソなら、これくらいならと言い訳を身につけ、

「今しようと思っていたのに、一々言われなくてもわかっているが。もうやめた、お父さん

のせいだ」と言いドアを蹴る。

「何をすつとかお前は、もう出ていけ」大声で私は怒鳴る。いつものこと。

あなたの言い分も分かる。昔の私と全く同じだから。でも、これからも「こうしろ、あれはするな」と怒鳴り続ける。あなたのために。そして思い出してください。あなたの素直さを。

そして、もっと感じてください。あなたへの愛を。



「優しさと厳しさ」

— 願いと感謝の言の葉 —



二人の声

直接言うのは照れくさいな。だからこの場をかりて言おう。お父さん、お母さん、いつもありがとう。二人には誰よりも感謝している。

二人とも、もう忘れてしまったかもしれないけど、私が中学一年生だったあの夜、私は涙が止まらずに一人で泣いたことがあった。勉強や部活でうまくいかないこと、人に私の性格がきついと言われたことから自分が嫌になって泣いたんだ。そんな私を見て二人は優しく励ますのではなく、「お前は死ぬほどの努力をして泣いているのか。もしそうでないのなら精一杯努力してから泣け。」と厳しく叱った。正直びっくりしたけど、もしあの言葉をかけてくれなかったら、私は挫折していたと思う。二人の声は私を奮い立たせてくれた。これからも二人の声がある限り私は頑張るから。



負けられません

天真爛漫、そのなんとも言えないかわいい笑顔に癒されるひととき。トイレの壁の十数年前のかわいい写真。

ところが今日も朝から押し問答。いよいよ訪れた息子の思春期は、まるで台風で荒れる海。成長の証というものの、攻撃的な顔と憎たらしいあの態度に無性に腹が立つ。

でも会話したくて、ときどきこちらからけしかける。案の定予想どおりの返事。思った以上の手応えに、ほくそ笑むわたし。

やりとりがエスカレートした次の日は、心が痛む。

一生懸命素直になろうとするから。「しかたない。」と言いながら、やってくれるから。いっぱい後悔したんだ。一人で悩んだんだ。素直になれないことはいらいらしたんだ。わかっているよ。全部わかっているよ。でも負けられない。まだ負けられない。おまえの寝顔とお母さんの気持ちはずっと同じだから。何があっても変わらないから。



くもの巣

「ありがとう」「ごめんね」って意外と言いくらい。僕は、家族と話す時間が少ない。なのに、一度話すと、ケンカをしてしまう。

「おはよう」という母の声にぶっきらぼうに答えてしまい、けんかした。目覚めが悪かったのか、気分が悪かった。それから、会う度に「ごめんなさい」と言おう、言おうと思っても言えない。僕の心の中にはくもが住んでいて、大きな巣を作っているのかもしれない。そのくもの巣が、「ごめんね」という言葉をつかまえて、こわしてるかもしれない。そうだとしたら、どうにかして、くもの巣をこわしたい。そして、母に「ごめんなさい」と言いたいと思った。それでも、もっと嫌なことを言ってしまう。本当は、とっても感謝しているのに。本当は、もっと別のことを言いたいの。



贈る言葉

あなたを見てると、春の俳句が浮かんできます。「春の海ひねもすのたり
のたりかな」と。終日というよりは、年中のどかすぎます。少しは危機感を
持ったらどうですかというものの、競い合ったり、目立ったりすることな
ど好まないあなたを見ていると、その方があなたらしいと思ったりもします。



少しずつ周りの状況の変化に気付き、精神的にも成長するときがきたら、「春風や闘志いだ
きて丘にたつ」という俳句のように、春疾風のような強い風が吹いても、闘志を一層燃やし発
奮して欲しいです。一年後には、すでに受験生と呼ばれ、顔色を変えて、寝る間も惜しんで勉
強するあなたを想像すると、少し滑稽です。一年後のあなたに、この俳句を贈ります。
「受験生春を忘れて道に立つ」。どうか心して受け取って下さいませ。

家庭の構図

「出たあ！ 妖怪グチグチババア！」

と父が言い、すかさず母が、

「もう。ババアじゃなくて、お嬢さんです。」

険しかった母の顔から笑みがこぼれ、ぴーんと張りつめた空気を父の一言が壊してくれます。

こうやって、父がいつも助け船を出してくれるので、私は父が大好きです。

しばらくしてから、父はなぜ母が怒ったのか、次にどうすれば良いのか諭すように教えてくださいます。

思えば、我が家は母が叱り、父が私をなぐさめるといふ構図が成り立っている気がします。そんな両親のもとに生まれ、育てられ、心より感謝しています。

そして、何があっても絶対に守ってくれる大きな愛で包んでくれているからこそ、今日も元気で頑張れます。



笑顔

おい、息子よ。

今を精一杯生きているか。

あつという間に親父の俺を越していった身長。

スラリと伸びた足に外で見せる笑顔。

さすがの俺もその笑顔には敵わない。

でも家では見せないよな。たまに母さんにも向けたら喜ぶだろうな。

大好きなんだろう。

そして真に笑顔の似合う男になれ。





ねえ、聞いて

お母さん、私はできる限り精一杯勉強や部活を頑張っているよ。けれど、お母さんは、私の悪いところばかり見ているね。私はみんなが仕事に行って留守番している時だから、気付かないのも当たり前かもしれないけど、その時に勉強頑張っているんだよ。でも、その結果がテストに出ないから、私がいけないのかもしれない。だけど、それで怒られてばかりいると、逆にやる気失せるんだよね。たまには私をほめてほしい。話もほとんど受け流されて、私だってお母さんに相談したら、アドバイスとかしてほしいし、面白い会話もしたい。仕事で疲れているのは分かるけど、ちゃんと私を見てほしい。お母さんのその目でしっかりと見てほしいから。体の中の毒を全てはき出したい。だから、私の話を聞いて、お母さん。

大人の宿題

大人になるとテストや宿題がなくなり、楽だと思っていました。ところが、子供が生まれ、子育てが始まると、いろいろな問題にぶつかります。

まずは、言葉が話せず、子供の様子で思いを感じ取らなければならず、これも、なかなか難問でした。また、少し大きくなったら、あいさつや後片付けなどの「しつけ」をしなければなりません。これが、簡単にはできず、いろいろな工夫が必要でした。さらに成長し、自分で考え、判断・行動できるようになったと思っていると、心の成長に必要な反抗期や友達とのトラブルなど、難問です。

親には、先生や教科書はありませんが、子供のことで日々、課題が与えられます。自分の親や先輩の話、本を参考として、問題にトライします。正解なのか不安になりますが、子供たちの笑顔を見ると、良かったのかなあと、また次の問題へと。



大切な言葉

私は、お父さんに会える日が年に一回しかない。私はお母さんがいない。

お母さんを恋しく思ったことはない。お父さんや学園のみんながいるからだ。でも

私は、大切な言葉を忘れている。「ありがとう」と「ごめんなさい」は恥ずかしいからではない。「ありがとう」と言ったって、意味がないと思っていたからだ。大切な言葉が言えない。

ある日お父さんが、私たちのためにがんばっていることを聞いた。私は「へえ、そうなんだ」としか思わなかった。私は自分の心にうそはつけない。でもある日、私はお父さんの仕事場に行った。お父さんが汗水たらしながらがんばっている。その時思った。「ありがとうお父さん」そう口に出したかった。でも出せなかった。それでも、お父さんに届いていると思う。



お母さんって偉い

「お母さんって偉いよ。」

二泊三日の出張先から自宅へ電話を入れてみたら、開口一番の娘の一言。

私が留守の間、料理は長女に、洗い物を彼女にお願いしていたのだ。

「お茶碗洗うでしょ、お鍋を磨くでしょ、生ゴミを片付けるでしょ、一日やっただけですごく疲れちゃった。そのうえ料理や洗濯まで、毎日仕事から帰ってきてやっているんだもん。お母さんて、偉いねえ。なんでソファでうとうとしているんだろうと思っただけ、眠くなるよ、当然だよ。」

出張から帰ってみたら、思いがけないプレゼントが待っていた。ぴかぴかに磨き上げられた台所。感謝の気持ちを込めてみましたって。

娘よ、ありがとう。優しい子に育ってくれて。



私を見ていて

逃げたい。今すぐ、この場所から。この縛られた環境から。この家族から。そう、本気で思った。

私がおかするたびに、毎日同じようなことを言ってくる。

「頭が悪くなったでしょう。勉強しないからね。」

「部屋はいつ片付けるの？」

私も、がんばっているんだよ。いい子でいられるように、自分なりに一生懸命なんだよ。何で気付いてくれないの。でも、それでも怒られ続けている自分も、同じように大嫌いなんだ。

お母さん、これから私が自分を好きになるようにするために、お願いがあるんだ。それは、私の変化を見ること。私が、本当の自分を見失わないように。



「心の響き合い」

—素直な思いの言の葉—



伝えたい思い

最近あまり話してくれなくなったね。ほんとはあなたの事、もっと知りたいのに…。最近あまりあまり笑わなくなったね。ほんとはあなたの笑顔、いつも見ていたいの…。最近あまり怒らなくなったね。ほんとはあなたのすぐすねてふくれた顔、また見たいのに…。

十五歳、楽しい事も悲しい事も悩み事も沢山あるよね。その全てを知りたいと思うのは、やっぱりお母さんのわがままでしょうか。少しずつ大人になっていくあなたをまぶしく感じながらも寂しいと感じるお母さんがここにいます。時にすさまじい程の口喧嘩くちげんかもするけれど、それも楽しみの一つです。それはあなたの色々な表情が見れるから…。

お母さんはこれからもずっと、あなたの色々な顔が見れるように、見守り応援し続けていきたいと思っています。うざいお母さんをよろしく…。



魔法の言葉

小さい頃から、人に優しく接する姿にいつも感心させられているよ。両親が共働きで、寂しい時もたくさんあったと思っっていますよ。だから、人にはいつも寂しい想いをさせないように自分から声をかけて、お友達の輪を広げているんだね。

決して華やかではないけれど、素敵な自分の花を咲かすことが出来る娘だと信じていますよ。人を信じて、人への想いを大切にして、言葉にして伝え続けられたらいいね。その言葉にきつと沢山の人が救われると思うよ。そんな魔法の言葉を一緒に探していこうね。親に怒られた時も動じない様子を見てみると、何だか魔法にかかったように不思議なくらい、怒りが消えてしまいます。

そんな、人の心を穏やかに導く力を持つ我が娘。いつまでも私達の宝物です。



感謝の気持ち

おかあさん、私が、一歳の誕生日の日。今のお母さんに、出会いました。私は、本当のおかあさんには、生まれてからすぐに、乳児院にあずけられ、今の家庭には養子としてきました。だけど、私は、おかあさんのことは、本当のお母さんだと思っています。

一年生のころ、お父さんと離婚したときも、一人で、私を育ててくれました。

そして、このことを知った五年生になったころは、いろいろと、おかあさんに、反抗しました。そのことは、謝ります。だけど、いまだに、私は、いまの家庭に、養子という形できたというのが信じられません。生みの親より育ての親という言葉のように、本当は、今のおかあさんは、義理の母ということになるのですが、私は、今まで、育ててくれてありがとうという感謝の気持ちを忘れずに母と二人で頑張りたいです。

言葉を待つ

なんでいつも怒っているんですか。

なんで励ましてくれないんですか。

なんで心配してくれないんですか。

私が、がんばれるただ一つの部活。

なんで応援してくれないんですか。

なんでほめてくれないんですか。

百人の人から罵声を浴びてもあなた一人が

「がんばれ」っていつてくれれば

がんばれるのに。

なんで言ってくれないのですか。

辞めるなんて言わないで

応援してくれる日を

私はいつも待っています。

言葉の力

「行ってきます。」

今日も元気に登校してくれた事に感謝。

「ただいま。」

部活を頑張ったのがひと目でわかる顔。

「おいしいね。」

味にうるさいあなたに言われた時は

小さくガッツポーズ。

「ありがとう。」

些細な事にも感謝できるのは素敵な事。

「大丈夫。」

超がつくほど前向きなあなたの

この言葉は大きな力。

小さなお母さんへ

あなたは、いつも他人の事を気遣っていて、自分のことはそっちのけ…。人にだけでなく動物、昆虫、植物に至るまで、あなたの行動はいつも優しさで溢れています。

足の痛い祖母との旅行の時、車を降りてすぐに藪の中から木の棒を探しだすと「ハイ、婆ちゃん。これを杖がわりにして。」と言った時、「まあまあ、優しいのね。有難うね。」と嬉しそうなお婆ちゃん。その光景に驚く周りの親せきの顔。私も正直びっくりしました。

思うだけで実行できない。思うどころか気付かない。考えられない人間が増えていく中、よく色々な事に気付き行動できて、まるでお母さん。

自分の為にも努力して大きく羽ばたいてください。

秘密

自分のあこがれは母。母は看護師。母の忙しい姿を見てなぜかあこがれる。

でも、あこがれていることは母には絶対秘密。なぜなら、自分が立派な看護師になった時に、目標はつねに母だった、ありがとうといつて、母をびつくりさせたいから。喜んで欲しいから。これからの自信と自分の母である誇りをもって欲しいから。だから、その日、そのときまではずっと秘密。楽しみにしてて。私の先輩、母。

言えなかった言葉

僕は今でも悔いに思っていることがあります。それは、お母さんの最期の時に、なんの言葉もかけてあげられなかったことです。僕が反抗した時も、お母さんは優しく声をかけてくれました。なのに僕は一番大事な時になにも言えなかったのです。そのことは、たぶん一生心に残ってしまうと思います。でも無理にそのことを忘れようとは思いません。そのことも大事な思い出の一部としたいと思います。

でも、あのおとき言えなかった言葉を、いま文という形で伝えたいと思います。お母さん、僕を産んで、大切に育ててくれてありがとう。そして、これからもずっとずっと空から見守っていてください。

心でつなぐ手

「おかあさん、おかあさん」元氣いっばい、うれしそうに話しかけて来るのは、あなたの五才の妹。あなたもあの頃はこうだったのね。今のあなたは笑顔も減り、何も話してくれなくなってしまいました。

いつもつないでいた手を、つながなくなくなってしまった頃からでしょうか。あなたとおかあさんの歯車が、少しずつずれてきてしまったのは。

あなたともっともつと話がしたい。あなたが笑うとうれしくなり、あなたが泣いていると悲しくなる。あなたのことが自分のことより気になってしまう。あなたがこんなになんばっているのを、本当はわかってるのにおこってしまう。

「ごめんね。」あなたがいてくれる、それだけで幸せです。これからずっと、あなたとおかあさんの心の手は、何があってもはなさないでつないでいようね。

友達

中学校に入学してから何人友達作りましたか。中学や高校での友達は、これからの君の人生の中で、非常に重要な存在になります。今の学校では六年間という長い間一緒に勉強するわけですから、その友達の存在は、なおさら大きいはず。

お父さんは、今の自分があるのは、中高生時代の親友のおかげだと思っています。その親友とは部活、勉強はもちろんのこと、学生生活すべてにおいて、時にはライバル、時には、助け合い、お互い刺激しあって、たくさんのことを勉強しました。その経験がその後の人生において大きく左右したと言っても過言ではありません。だからこそ、友達は大切だと確信しています。

この六年間は、学力を高めることも大事ですが、学校生活の中において、たくさんの友達を作っていくことを大いに期待しています。

心で話す

私は、一昨年から母親に本音で話すことができない。

一昨年、私は大好きな父を失った。母は、私達には涙を見せず気丈にふるまっていた。そんな母に影響されてか、私もずっと笑っていた。でもそれはとても悲しいことだと思ふ。

父のことは一生ぜったいに忘れられない。母は、泣いているのだと思う。表に出さない分、心で。私は母が泣かないように本気で向き合えないといけないのではないのかと思えてきた。

そろそろ心で話してみようかと思う。

母親へ

父親にいつも怒鳴られてつらいことは分かっている

だから僕に愚痴をこぼしても構わない

俺は愚痴を聞かされるのは嫌じゃないから

抱え込まないでほしい

抱え込んで、心を壊してしまう方がいやだから

から

遠慮しないで言ってほしい

俺はちゃんと受け止めるから

平成18年度「こころの言の葉」コンクール 入賞者一覧

応募総数:10,848点

○大 賞

中学生の部	親 の 部
日 高 史 博	福 田 裕 美

○準大賞

中学生の部	親 の 部
川 島 愛 惟	徳 永 博 幸
村 上 貴 彦	平 石 洋 子

○優秀賞

中学生の部	親 の 部
楢 松 幸 彦	青 山 かおり
土器屋 みつき	有 島 正 秀
瀬 座 真 琴	早稲田 孝 子
川 内 康 輔	嶋 崎 義 之
梶 愛 梨	牟 田 義 信
万 田 周一郎	中 俣 美 紀
山 本 麻 子	中 島 昭 子

○入 選

中学生の部	親 の 部
豎 山 仁 美	桃 原 邦 夫
松 山 ち え	室 屋 幸 枝
佐 野 愛 莉	品 川 里 香
嶋 崎 衣 利 子	牛 尾 加 代 子
廣 森 智 美	卷 木 真 紀 子
竹 平 亮 太	安 永 い づ み
石 坂 隆 真	赤 塚 智 子
安 川 純 平	堂 園 栄 一
日 高 茜	山 下 香 代 子
澤津川 耀	肥 前 美 津 穂

審査員講評

審査委員長

千々岩弘一先生

本コンクールも四年目に入り、参加者の輪が一段と広がった。応募総数は一万点を超えた。新たに私立中学校や高一貫の公立中学校が加わったことも、その一因である。また、三年連続して応募してくださった親子の存在も大きい。PTAも含め全校的な取り組みとして位置づけてくださっている学校の存在も心強い一方、「作品集」の読者も着実に広がっている。美容院でお客さんが涙してくださったとも聞く。教師の卵の学生が涙している姿にも接した。本コンクールは、確かに根付き始めている。

昨今、教育をめぐる問題が耳目を集めている。学力低下・いじめの再燃・命をないがしろにする行為の頻発など、多くの場合は、ある問題状況として語られることが多い。気が重くなる。しかし、「作品集」に収録されたものをはじめとする応募作品は、「懸命に、そして真摯に生きる中学生や保護者の姿」として、私たちを勇気付けてくれる。

本コンクールが、市民を勇気付け、教育への信頼を実現する財産として共有され、継承されることを願ってやまない。

鹿児島国際大学教授

坂尾加代子先生

「素直になりたい でもなれない」子どもたちから寄せられた「言の葉」には、このような心情が多く綴られていました。素直な一言が口に出して伝えられないもどかしさ…。「言の葉」だから伝えることができた様々な子どもたちの本音に、大人として考えさせられる内容も多々ありました。また、自身の心の変容に自問する子ども達の真摯な姿に心を打たれました。一方、思春期に揺れ動く子どもの心や言動に戸惑いを感じながらも我が子を信じ、成長を見守る親の姿に、揺るぎない愛情を感じました。

親と子の思いが、ぎっしり詰まった「言の葉」。そこから、強く伝わってきたのは、お互いが、お互いの「存在そのもの」に感謝をしている」という気持ちでした。このことは、「こころの言の葉」を通して改めて気づくことができた大切な思いであり、この大切な気づきを、いつも、いつまでも忘れないで欲しいと思います。

現在、様々な社会問題が、子どもたちを取り巻いています。このような時こそ、「こころの言の葉」による交流が日常的なこととなり、さらに広がっていくことで、多くの親と子が、本音で語り合える関係を築いて欲しいと切に願っています。

西陵地区生活指導支援員

岩松マミ先生

なぜ？ どうして？ 新聞製作という仕事をしながら、ため息がでる毎日です。親子で引き起こされる悲しいニュースがあまりにも多いから。家族の絆は失われつつあるのだろうか…。暗たんたる気分になってしまいます。

でも、そんな気持ちを言の葉の作品たちがさわやかに吹き飛ばしてくれました。「うざいけど、本当はありがとう」「反抗も成長の証。見守ってるよ」親子がぶつかりながら、お互いを支え合っている姿は不変でした。

特に今年は父親の出品が増え、子育てに積極的に関わろうとする意欲を感じました。思春期の子どもを冷静に見つめ「どんとかかってこい」と、大人の余裕とたくましさを示した作品に、うれしくなりました。

一方で、毎回作品を通し、親子とも心からの会話を求めていることもひしひしと感じます。「あなたを大切に思う」言葉を文章にしたためるだけでなく、口に出す努力もそろそろ必要なのかな、と自省を込めて思います。

あふれる情報と裏腹にどんだん人の姿が見えなくなる時代。だからこそ、言の葉が家族、そして学校をつなぐ架け橋になることを期待しています。

南日本新聞社編集総務部副部長

山口光敏 先生

このコンクールも発足以来四年目を数え、その応募総数も一万点を超えるに至った。また、今回の特徴的な傾向としては、父親の参加が増え、素晴らしい作品が多く目についたということである。これらのことは、この事業の趣旨が理解され、浸透してきた証として実に喜ばしい。

応募された作品も例年同様、各家庭での温かくも厳しい親子の接し方や心情がドラマチックに展開されており、感動の渦の中で家族の在り方を思い知らされることであった。つまり、親は家族を守り、子育てに必死になりつつも、多情多感な子どもとの関わり方に悩み、つい小言を言ったり、叱ったり、手の方が先に出てしまう。子どもたちも思春期の中で、早く自立したい、大人の仲間入りをしたいと焦りながら、進路や家族のこと、勉強や友達のこと、先生や部活のことなどで、小さい胸を痛めている。そして思うようにならない自分が腹立たしく、それらの不平や不満の矛先を家族や友達や学校に向けているのである。

ただ、両者とも互いの存在を認めながら、よき家族の一員であろうと努力はするものの、まだまだ言いたいこと、相談したいことも遠慮してしまふという現実がある。

こうした親子の関係が、このメッセージによって、少しでも互いの距離を縮め、互いにとって最高の存在になって欲しいものだ。

元中学校長

遠矢仁司 先生

子どもに関わる、また子どもが関わる事件等が跡を絶ちません。父親の家庭教育不在が指摘され、教育の原点である家庭の在り方が問われています。しかし、応募一万点を超えたひとつひとつの言葉の葉に触れると、そんなことなど少しも感じません。今回、父親からの応募がずいぶん増加したこと、また、子どもからの言の葉も父親に対してのものが数多く見られたことに安堵し、今後もこのような傾向が続けば嬉しく思います。

おわび、お願い、決意、励まし、慰め等、今の自分の気持ちや思いを、色とりどりの表現で記された言の葉から、当たり前のことですが、親と子の絆の強さがうかがえます。親子であるが故に面と向かつては語れない言の葉も、普段の生活の中で素直に語ることができたら、もっと親の良さや子どもの良さが解るのかもしれない。

中学生に今大切なことは、親子での、また家族との語らいであることを、私たち大人はもっと認識しなければならぬと思いました。道理にかなうことと、かなわないこと、良いこと悪いことの判断、愛すること憎むこと、生きること死ぬことなど、今から確立していかなければならない人生論の命題も、それらの語らいの中から芽生えるのではないかと考えます。

たくさんの方に応募に感謝し、また来年も素晴らしい感動に出会えることを期待しています。

市PTA連合会会長

わたしからの「こころの言の葉」

子から親へ

わたしからの「こころの言の葉」

親から子へ

こころの言の葉

～第4集 命のかがやき～

平成19年1月31日

発行 鹿児島市教育委員会
〒892-0816 鹿児島市山下町6-1
TEL(099)227-1941 FAX(099)227-1923

